

「いつか見返してやる」
という思いがいつもあった

63歳になり、ソフトボール人生は今年で51年目の節目です。いろんなことがありましたが、波瀾万丈な中でも続けてこれたのは夢があったからです。「いつか見返してやる」という思いがいつもありました。

私がソフトボールを始めたのは中学校に入学してからです。県大会の優勝を目指して頑張りましたが、ベスト8止まりでした。

高校はソフトボールの特待生で入学し、1年からレギュラーになりました。

練習が終わると、毎日のように反省会がありました。でも実際は先輩のお説教です。「1年生は態度が悪い！ あいさつができてない！」と怒られていました。

でも、先輩たち自身もできていたとは思えなかったので、1年生7人全員で相談した上で、私が代表して「言ってることとやってることが違う」と先輩たちに文句を言いました。するとすぐに1年生全員が呼び出され、その日は夜11時半までお説教でした。

その後1年生で話し合い、「これは絶対



◇1◇

あの挫折があったから今の私がある！

「やっぱり先生は生徒をちゃんと見ていた」

宇津木 妙子

女子ソフトボール元日本代表監督

おかしい。みんなで学校を休んで先輩たちを懲らしめよう」と決めました。

泣きながら
草むしりをした

翌日から私は、母が作ってくれた弁当を持って出掛け、神社の壁を相手にキャッチボールや素振りをしたりして、夜になると家に帰るとい生活を始めました。

ところが、私以外の6人は約束を破って、いつも通り登校していたのです。

ある日曜日、校長先生が「宇津木、みんな待っているから帰ってこい。おまえがいないとチームにならない」と迎えにきてくれました。

校長先生の車で顧問の先生の所へ行っ

て謝ると先生から言われました。

「おまえの勝手な行動でこの1週間、どれだけみんなに迷惑をかけ、同級生たちが毎日どれだけ先輩や先生に叱られるながらやってきたか分かってるのか！」と。

そしてその後1か月間、罰則で1年生の仕事全部やるように言われました。

最初は同級生を恨みました。「約束を守らず登校したみんなが悪い」と。

でも目を追うごとに「1週間の間、どれだけ同級生が嫌な思いをしたか」と考えるようになりました。

そのうち「なぜあんな行動をしたのだろう」と自分に腹が立ち、「私は何やってるんだろう」と泣きながら草むしりました。



彼女が許して くれるまで頑張ろう

1か月が過ぎる頃、新人戦がありました。メンバー表になんと私の名前が入っていました。そして私たちのチームは初優勝を果たしました。翌日の練習で、私は3塁のポジションに入り、今までレギュラーだった同級生が補欠になりました。

それ以後、その子は私に意地悪をするようになりました。ボールをぶつけたり肘鉄をしたり、無視したり、とてもつらく苦しい時期でした。

何度も部を辞めようと思いましたが、辞める勇気はありませんでした。

両親や兄、あるいは先生に相談しようかなと思いましたが、その勇気もなく、自分と向き合っただけの日々を送っていました。

結局、自分で出した答えは「補欠になつた彼女のために頑張ろう。彼女が許してくれるまで頑張ろう」でした。

それから朝練習と部活後の夜練習を始めました。この朝練は40年経つた今でも続けています。

彼女は言った

「今までごめんね」

3年のとき、昭和46年の和歌山県体に埼玉県代表で出場しました。県知事や県のソフトボール協会の人たち、高校の先生たちも応援に来てくれました。

1回戦から勝ち続けましたが、決

勝戦で敗れ、準優勝で終わりました。応援してくれたみんなが「郷土のため、母校のためによくやってくれた」と祝勝会を開いてくれました。

会が終わったとき、元レギュラーの同級生に呼ばれました。

約2年間、私は怖くて彼女にあいさずもできませんでした。あのとときからずつと時間が止まったままでした。

ドキドキしながら真つ暗闇のみかん畑に出ていきました。

彼女は「今までごめんね」と言いました。私も彼女に言いました。

「私のほうこそごめん。あなたに許してもらいたくて、認めてもらいたくて、朝も夜も練習して頑張ってきた。おかげでこんなにうまくなれたよ」と。

もしあのととき辞めていたら今の自分はありません。だから今は彼女にとっても感謝しています。

毎年8月、同級生みんなで集まります。彼女も来てくれます。「懐かしいね」と笑いながら昔話をしています。

社会人になつてから何度か高校時代の担任の先生と食事をしたのですが、あるとき聞いたことがあります。

「先生、私1年の後半からいろんなことがあつただけぞ知つてた？」って。

すると先生は「知つてたよ。いつ宇津木が相談に来るか、待つて

た」とおっしゃいました。やっぱりすごいですね、先生って。

学校の先生というのはそれくらい生徒をちゃんと見ているのです。

だから子どもたちにもこの話をしながら、「何かあつたらちゃんと先生に相談に行きなさい」と言っています。

（東三河法人会豊橋支部が開催した「市民講演会」より／山本孝弘・中部特派員取材）

「うつき・たえこ」高校卒業後、日本ソフトボールリーグ女子1部のユニチカ垂井に所属、世界選手権へも出場し、日本を代表する選手として活躍。1985年に現役を引退し、指導者へ転身。アトランタ五輪でコーチを務めた後、女子ソフトボール日本代表監督に就任。シドニー五輪で銀メダル、アテネ五輪で銅メダルへ日本代表チームを導いた。その功績を讃えられ、日本人で初めて、国際ソフトボール連盟殿堂入りを果たす。2008年北京五輪では試合の解説を務め、金メダルに輝いた試合での名解説では、多くの国民に感動を与えた。